
「令和6年度 飼料用米多収日本一」 東北農政局長賞受賞者の取組概要

(敬称略)

単位収量の部

1

高橋 俊恵

地域の平均単収からの増収の部

2

八木沼 源一

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ゆたかまる	12.3ha	763kg/10a	93kg/10a(670kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人、妻、息子、息子の妻)、繁忙期に臨時雇用あり
- 無人ヘリによる追肥等で省力化を図るとともに、額縁追肥で畦畔付近の成長しやすい株を太く育て収量増を図る。

【作付品目】

- 主食用米 はれわたり 3.2ha
- 飼料用米 ゆたかまる 12.3ha

【取組のきっかけ】

- 水田農業の経営発展と次世代への継承に向けて、作期分散による農業機械の効率的運用による規模拡大や経営の安定化が図られることを期待して、平成27年産から飼料用米生産に取り組む。

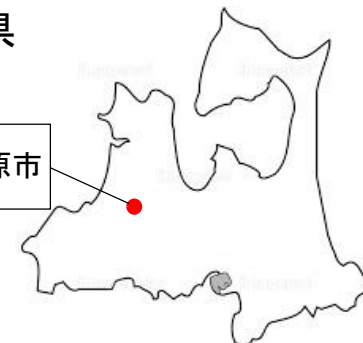
【取組概要】

- 令和2年産まで作付けていた「みなゆたか」よりも、多収性、耐倒伏性及び耐病性に優れた新品種「ゆたかまる」を選定。主食用米と作期の重ならない飼料用米の品種を選択することで、作期分散にも取り組んでいる。
- 施肥管理は、①基肥に一発肥料(成分30-10-9)を用いて窒素成分12kg/10aを施肥、②追肥は、無人ヘリを用いて2回実施しており、1回目は7月中旬に高窒素成分肥料(成分30-0-2)を用いて窒素成分1kg/10aを散布、2回目は7月中旬に倒伏に注意しながらNK525を用いて窒素成分1kg/10aを稲の生育状況に応じて、ピンポイントに調整しながら散布、③畦畔付近4列の日光及び風通しが良い株に手散布で額縁追肥を行い、太い株に育て多収を実現している。
- 雑草防除は①初期にシンウチEW剤を施用し、②その後、流星ジャンボを基本的には畦畔から投げ込み、圃場が大きいところは田に入って投げ込む。
- 米の集荷業も営んでおり、主食用米だけでなく、飼料用米及び稲わらも収集している。地域の農家の相談相手となることも多く、栽培管理についても惜しみなく情報提供することで、地域の飼料用米生産農家の技術向上にも貢献している。



青森県

五所川原市



2 やぎぬま げんいち 八木沼 源一(福島県石川郡浅川町)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ふくひびき	1.6ha	706kg/10a	162kg/10a(544kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人と妻)、繁忙期には息子と娘も手伝う
- 水稻を中心に、ニラ等の野菜も作付け。周辺農業者の主食用米の収穫・乾燥作業を引き受けている。

【作付品目】

- 主食用米 5.2ha
コシヒカリ(特別栽培米)、ひとめぼれ、こがねもち
- 飼料用米 ふくひびき 1.6ha
- ニラ(施設栽培) 0.1ha

【取組のきっかけ】

稲作作業の省力化を図りつつ増収が期待でき、農家所得の向上にも繋がると考え、平成28年から飼料用米の生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 多収が期待できる「ふくひびき」を令和元年産から選定。主食用米3品種と作期が重ならないことから、作期分散・適期収穫に取り組んでいる。また、平成30年まで作付けていた「天のつぶ」よりも耐病性・耐倒伏性に優れていたことから、栽培管理がしやすくなった。
- 施肥管理は、基肥として元肥一発肥料「超高窒素硫黄コート一発」を40kg/10aで田植え同時側条施肥で施用する。もともと地力が高いことや、飼料用米を日当たりの良いほ場に作付けていることから、追肥をせずとも多収を実現している。
- 雑草防除は、①田植えの1週間前に水を張った状態で初期除草剤「草笛フロアブル」を振り、②田植えの1週間後に中期剤「ウルティモフロアブル」を振る。
- 省力化を図るため、①病虫害防除は、いもち病・害虫防除として箱処理剤「ブーンパディート箱粒剤」を50g/箱で施用し、②出荷時にはフレコンを用いることで、包装代のコスト削減と労働力の削減を図る。



福島県

